

カツオ一本釣り漁船が佐賀港を出港

今シーズンのカツオ一本釣りのスタートに向け、2月中旬よりカツオ一本釣り漁船が佐賀港を出港しました。

2月23日(水)には、昨シーズン、近海カツオ一本釣りの水揚げ額日本一位を達成した第88佐賀明神丸など計3隻が出港しました。

第88佐賀明神丸の森下靖漁労長は出港直前、「今年はカツオの姿がなかなか確認できず、例年よりも遅い出発となった。出港日はいつも緊張しているが、今年はお発が遅くなったことで焦りもある。萎縮せず、今年も一位をめざして頑張っていきたい」と話しました。見送りに来た子どもたちは、「気を付けてね」「日本一になってね」など、応援の言葉を送っていました。



出港を見送る人たち

同船は、九州・関東・近畿などで漁をしながら、12月ごろに黒潮町に帰港する予定です。

町内小学生がTシャツアート展のTシャツ作り

町内の小学校では毎年、「Tシャツアート展」へ応募するためのTシャツ作成を3年生時に行い、実際に飾られた光景を4年生時に見るという取組が行われています。

3月1日(火)には、田ノ口小学校でTシャツのデザイン制作が行われました。参加したのは、2年生3名、3年生5名の計8名。NPO砂浜美術館の塩崎草太さんから「砂浜美術館」について話を聞いたあと、児童らは「教室にある人に紹介したいもの」をテーマに、絵本のキャラクターや自分の好きなものを自由に描いていました。

同小3年生の矢野愛梨さんと金子花菜さんは、「好きなものを自由に描けて嬉しかった。Tシャツが手元に帰って来たら、休みの日や、来年のTシャツアート展に行きたい」と話しました。



イラストを描く児童

3年生が作成したイラストは、今年5月に開催されるTシャツアート展で展示されます。

まほろば Vol.16 くるしお

「まほろば」とは、素晴らしい場所・住みやすい場所という意味。まほろばな黒潮町で頑張る人や団体にスポットを当て、紹介するコーナーです(隔月掲載予定)。



(有)じいんず工房
取締役社長 松田 和司さん

2002年に開業、2009年には自社ブランドを立ち上げました。くじらの古名である「イサナ」からとった「isa」のブランド名は、黒潮町が「くじらの見える町」であることを売りにしたいという思いから名付けられたそう。現在、約30人が働く町内唯一のジーンズ専門工場「じいんず工房」の取締役社長の松田さんに話を聞きました。

「いんず工房やisaブランド立ち上げのきっかけは？」

元々この工房は、ビッグジョンという企業の下請けをしていました。

しかし、国内生産を全て取りやめて海外進出をするというところで工房が閉鎖することになってしまったんです。工房も一度は閉鎖しましたが、工房で働いていた職員が新しく立ち上げたのが、このじいんず工房です。

そうして立ち上げてしばらく経ったある時、それまで工房の売り上げの半分ほどの量を受注していた企業に「もう仕事が出せない」と言われ、半年ほど休業したことがありました。

この時、「受注にばかり頼っていいはだめだ」と感じ、「自社製品を作って販売しよう」と思ったところで、町の職

「isa」商品へのこだわりは？」

ジーンズを作っている際に余った生地を有効活用し、作成することです。小さな面積の布でも作成できるコースターやアクセサリーなどを作ることで、捨てる生地を減らして環境に配慮した商品作りをしています。

「余った生地を捨てるのはもったいない」



工房直営ショップ

今後の目標は？」

インターネットを中心に、全国にじいんず工房の商品を広げたいです。コロナ禍でネットを使った買い物が増え、これからはネット中心の買い物が増えていくと思います。現在は自社のサイトでも買い物ができるようにとサイトの準備をしています。既存のインターネットショップと別で、自社サイトを作成し、新規顧客を増やしていきたいです。



工房内部

広報に掲載しきれない内容や取材の裏話を町公式Facebookで紹介します。裏表紙のQRコードからご確認ください。